

第1章 団塊の世代の特徴や志向と調査研究委員会からの提言

団塊の世代は2007年頃から退職期を迎え、地域社会での生活が中心となります。団塊の世代は仕事や家事、趣味などで培った豊富な知識や専門的な技術を持つ人が多く、この方々を地域社会でいかに活かしていくかが、これからの地域づくりの重要なポイントと考えます。

1 団塊の世代の特徴や志向

今回の調査結果から、下記のような佐賀県の団塊の世代の生涯学習に関する平均的な姿が読み取れます。

半数の人は、生活にゆとりを感じています。

現状でも半数程度の人は、日常生活において好きなことに使える時間的・経済的ゆとりを感じています。自由に使える時間ができた時は、主に「趣味」や「旅行」、「テレビやラジオの視聴」、「休養」などをして過ごしています。

学びたいことは、パソコン関係がトップです。

ほとんどの人(94.2%)は生涯学習という言葉聞いたことがあり、日常生活の中でも8割弱(76.7%)の人は何かを学びたいと感じています。その内容としては「パソコン関係」(56.9%)が最も多く、次いで「趣味関係」となっています。

生涯学習の主な阻害要因は、仕事や家事で時間がとれないことです。

学びへの高い意識に反して、生涯学習を実践した人は約3割(28.0%)にとどまっています。

学習実施者も未実施者も「仕事や家事で時間がとれない」ことを生涯学習に取り組む上での最も大きな問題点と感じています。

趣味・公的機関・週1回が、平均的学習像です。

実践した生涯学習の実態としては、学習内容は「芸術・趣味」(44.3%)と「健康づくり」(43.5%)が多くなっています。学習方法は「公的機関」が4割(40.0%)と最も多く、次いで「民間機関」、「同好会やサークル」、「図書館や自宅での独学」となっています。学習回数は週1回程度(月3.6回)で、学習成果は自分自身のために活用している人が多くなっています。

ボランティア活動や地域活動への取り組みも考えています。

今後、自由に使える時間がもてる時期は「3年後から10年後」まで分散しており、主に「旅行」や「趣味」に取り組みたいと考えています。

今までの仕事や趣味、学習の成果活用として「趣味を深めたい」と考える人が最も多いのですが、「ボランティア活動」や「地域活動」にもそれぞれ約1/4の人が取り組みたいと考えています。実際に活動を始めるには、「情報提供の充実」や「養成・研修講座」が必要だと感じています。

6割強の人は、生涯学習への取り組みを考えています。

生涯学習に積極的に取り組みたいと考えている人は6割強(64.5%)で、学習の方法は「公的機関」や「同好会・サークル」、学習頻度は「週1～2回」、学習場所は「居住市町村内」と考えています。学びたい内容や学習レベルは広範にわたり、身に付けた知識や技能、経験の活かし方としては、自分自身の生活の向上に活かすことを考えています。

これからの情報収集・提供は、インターネットが重要です。

現状では、インターネットを活用して情報収集している人は約3割(30.1%)ですが、今後、必要があれば実践すると考えている人は全体の3/4(76.9%)を超えています。

2 調査研究委員会からの提言

(1) 団塊の世代のあなたへのアドバイス

やらなければならないことに追われる生活から定年を迎えた時、何をすればいいのかわからない、自分の居場所が見つからないと戸惑う人は多い。第2の人生を楽しく、生き生きと過ごすには、まずはできることから始めることが大切です。

提言1 見つけようあなたの生きがい

生涯学習は、自分の人生を楽しく豊かなものにするため、自分が興味あることや必要性を感じたことを学んだり、スポーツ活動やボランティア活動、地域活動などに取り組んだりすることです。あなたの周りにもたくさんの学習や活動の機会があります。難しく考えず、まずは興味ある学習や活動に参加してみませんか。きっとあなたの生きがいが見つかるはずです。

提言2 趣味から始める地域の仲間づくり

あなたが興味あること、やってみたいことに勇気を持って一歩踏み出してみませんか。あなたの周りには様々な学習や活動に取り組む人や団体があり、学習や活動をとおした交流から、仲間づくりも盛んです。楽しく学んだり、活動したりする中で、新しい地域の仲間を作りませんか。

提言3 あなたもできる一人一技一貢献

あなたが仕事や家事、趣味などで培ってきた知識や技能、経験は大きな財産です。あなたにとっては当たり前のことでも、地域ではその知識や技能、経験を求めている人や団体がたくさんあります。講師や指導者などと堅苦しく考えるのではなく、共に学ぶ・共に活動する仲間となって、あなたの大きな財産を地域の中で活かしてみませんか。

提言4 あなたが主役のまちづくり

急激な社会情勢の変化により、地域コミュニティが崩れ始め、身近な場所でも様々な問題が起きてきています。また、市町村合併、三位一体の改革など地方行政も大きな変革期です。誰もが安心して生活できる、生き生きとしたまちづく

りには、住民の力は欠かせないものです。これまでの経験や知識、技能を活かしてあなたが考えるまちづくりに取り組むチャンスです。ちょっと踏み出せば「コミュニティビジネス」としての展開も可能です。

提言5 行ってみませんか、身近な生涯学習施設へ

身近な生涯学習施設には、地域で自主的に学習活動を行っている人や団体の情報、地域でどんな知識や技能、経験をもっている人が求められているかなど、生涯学習に関する幅広い情報を得ることができます。また、職員や他の利用者との何気ない会話の中から、あなたのやりたいことや知りたいことが見つかるかもしれません。

(2) 団塊の世代を活かす生涯学習施策のあり方

これからの生涯学習機関は、団塊の世代がもつ行動傾向や、仕事や家事、趣味等で培った多様な知識や技術をいかに地域で活かしていくかが重要です。地域のあらゆる場面で、団塊の世代の多彩な能力を活用すれば、活力のある地域を創れるのではないのでしょうか。

提言1 団塊の世代の多様な学習ニーズに対応する情報や学習機会提供のシステムを充実させましょう。

団塊の世代は、生涯学習の実践に最も必要なこととして、「学習情報の提供」を求めています。学びたい内容は多岐にわたり、身近な場所で、公的機関や同好会・サークルでの学びを志向しています。

また、生涯学習実践にあたって支障となることとしては、「講座や教室の時期や時間が合わない」ことを約3割の人があげています。

- ① 多様化する学習ニーズに対応するには、教育委員会関係の講座や教室だけでなく、福祉や健康、環境など首長部局の学習情報や近隣市町村、県内全域の情報も収集することが求められるのではないのでしょうか。
- ② 収集した学習情報を提供する方法としては、情報紙誌はもちろんのこと、今後のITを活用した情報収集志向を考えると、インターネットやメルマガ配信などITを活用した情報提供の充実が求められるのではないのでしょうか。
平成17年度から佐賀県が稼働するインターネットによる生涯学習情報提供システム「まなびネットSAGA」に市町村や生涯学習関係団体がそれぞれにもつ学習関係情報を集約できれば、広く県下の情報を提供することができるようになり、県民だけでなく、生涯学習関係職員にとっても貴重な情報源となると思われます。
- ③ 何をやりたいかが見つからない、学びたい気持ちはあるがきっかけがつかめない、情報の中から自分の学びに必要な学習機会を見つけられないなど学習情報の提供だけでは解決できない問題もたくさんあります。学習希望者と学習機会を結びつけるコーディネート機能の充実も必要なことではないのでしょうか。
- ④ インターネットを活用した学習（Eラーニング）は、時間と場所の制約のない学習方法です。これからは、実施した講座を動画で配信する、講師と学習者や学習者同士が電子掲示板で意見交換するなどインターネットを活用した学習機会提供への取り組みも求められるようになるのではないのでしょうか。

提言2 趣味の同好会やサークルなどにもアンテナを伸ばしましょう。

団塊の世代は「趣味を深めたい」、「同好会やサークルで学習したい」という志向が強くあります。行政として、この趣味の同好会やサークルへの志向を活かした地域の仲間づくりを支援していくことが、崩れつつある地域コミュニティーを再生し、地域活性化を図る基盤として必要ではないでしょうか。

- ① 公的機関を利用する同好会やサークルだけでなく、地域で活動している好会・サークルなども把握して、活動を紹介し合ったり、活動を希望している人と交流したりできるような機会を設定することは、活動への参加促進と活動の活性化を図るためにも大切ではないでしょうか。
- ② 同好会やサークル活動には、活動拠点の確保という問題があります。そこで、公的機関の居住区による利用制限を緩和したり、学校の空き教室など公的機関がもつ余裕スペースや商店街の空き店舗を活動場所として開放したりすることも必要ではないでしょうか。

提言3 団塊の世代は、生涯学習や地域活動のリーダー予備軍です。

団塊の世代は、自分のキャリアを活かすには、「活動の機会や場の情報」が最も必要だと感じ、次いで「講義のやり方を学ぶ機会」、「講師と講師を必要としている人やグループをつなぐコーディネーター」が必要だと感じています。

団塊の世代の人たちがもつ多彩な知識と経験は、地域が求める学習やまちづくりなどの活動にすぐに活用できる生きた財産です。地域在住の団塊の世代の方々がもつ財産や活動意向等をしっかりと把握し、地域のニーズと結びつけたり、活動先を紹介したりすることが必要となるのではないのでしょうか。

- ① 公的機関が、団塊の世代を地域リーダーとして活かすには、いつ、どこで、誰が、どのような知識や技能をもつ人を求めているのかという情報や、自分のキャリアを活かしたい人や団体の情報を登録・公開するシステムを構築することが重要です。また、地域人材と活動の機会をつなぐ「出会いの場」を積極的にコーディネートする必要があります。
- ② 団塊の世代が、講師や指導者として活躍できるようにするには、話し方や資料のまとめ方など講師として必要な技能を学ぶ機会を設定することも必要になります。それとともに、まずは公的機関が実施する講座や教室に地域人材を積極的に活用し、経験とより実践的なノウハウを身に付けてもらうことも必要ではないのでしょうか。

提言4 団塊の世代は、これからのまちづくりに欠かせない存在です。

団塊の世代は自由な時間ができた時に、地域活動やボランティア活動を志向する割合も高いものがあります。実際に活動するには「情報の充実」、「養成・研修講座」、「コーディネーターの存在」が必要だと感じています。

- ① ボランティア活動や地域活動には、基本的な心構えや知識、資格、技術など必要なこともたくさんあります。首長部局と連携をとり、講座や講習会などを紹介したりすることが必要ではないでしょうか。
- ② ボランティア活動や地域活動は、行政区域を越えた活動や他の行政区域の団体と連携をとる必要性があります。そこで、県内の活動情報や活動者と受け入れ側、活動希望者等の需給を把握し、広く情報を提供したり、活動をコーディネートしたりすることも必要です。
- ③ 地域活動やボランティア活動を行う時、活動拠点がなく、活動資金が不足しているといった問題がよくあります。行政の支援としては、従来の補助金といった制度だけでなく、NPOなどへの法人化やコミュニティビジネスとしての立ち上げなども視野において、幅広い支援のあり方を工夫していくことが必要です。

提言5 生涯学習関係機関・職員の資質が問われます。

団塊の世代を活かすには、学習情報収集能力やIT機器の活用能力、情報と人や人と人を結びつけるコーディネート能力など、生涯学習関係職員の資質が問われることになります。

- ① 今後一層社会のIT化が進展すると考えられることから、生涯学習機関もIT機器を活用した情報の収集や管理、提供などが求められています。この社会的要請に対応するにはIT機器の整備とともに、職員のIT機器活用能力を高める必要があります。
- ② 地域での個人や団体活動を支援していくには、その個人や団体が必要とする学習や人材情報から行政の支援施策や補助金制度まで、幅広い知識が求められることになります。このような広範にわたる知識や経験の求めに応じるには、生涯学習機関職員の資質を高めることはもとより、システムとしてレファレンス能力を高めることが必要です。